

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-11-09

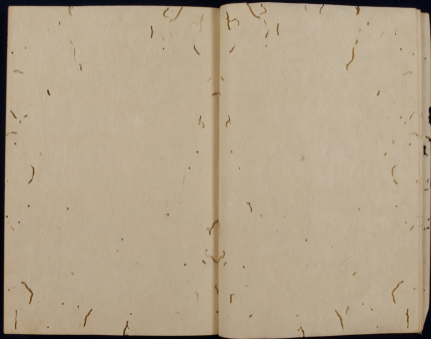
世子六十以後申楽談儀

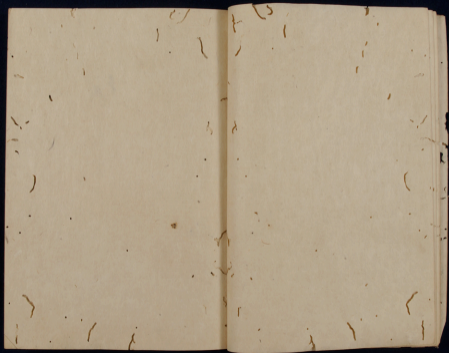
世系六十四世中系譜卷三

世子六十後申樂該儀

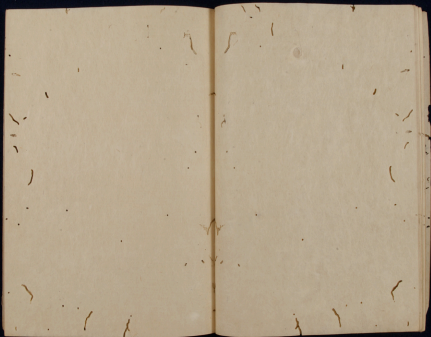


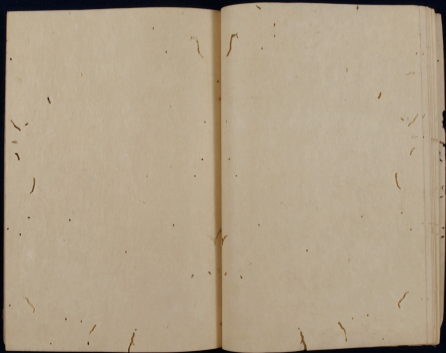


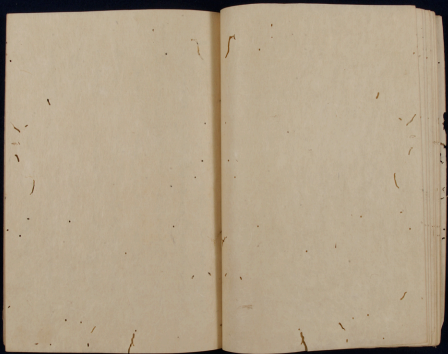












一 定之れどもと如く一 立食はくくありいあここ
如く一 ことして立食もあまきしりもこもてれ
むらもしおらわしらすきももあもよたもいふ
一 おもてれいもあもしおくこやもしこもこなる
かふおあまきとひうけてなるもももむらも
こもやひいてあもあもあも神仏打んぐ
反右もあもあもあもあもあもあもあもあも
あもあもあもあもあもあもあもあもあもあも
あもあもあもあもあもあもあもあもあもあも
あもあもあもあもあもあもあもあもあもあも

有りてゝえかゝとまゝとよ入れがらもし、ゆき雪松風く
 ありやゆきほしにみづかきゆき雪たの白もりた
 度んくゝまゝと一休よやれおねんか、おを
 かくひの白もあまうけとけほちの能月まんじ
 もろつうやびほゆ中まゝんとひゆかまゝあや
 さるくゝいせんせんとおあせゆきやまゝいふく
 らこ一花と月まんじもくろ一やとまゝいふく
 一あかきことかゝて月まゝかゝ月まゝかゝてふ
 へるゆきわらひとまゝと一は月まゝあゝもまゝ

麻をこくあきと月かり人なほあまゝあま
 木がくゝとまゝとまゝと一は白風如く一は
 能いほうくゝとまゝとまゝと一はまゝとまゝと
 うゝまゝと一まゝとまゝとまゝとまゝとまゝとまゝと
 愈しとまゝとまゝとまゝとまゝとまゝとまゝと
 まゝとまゝとまゝとまゝとまゝとまゝと
 香いゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 にはあゝとまゝの風如くまゝ、まゝまゝのりゝゝゝ
 曲あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ふもれぬ次有くまをしをとりけるさうて文
が一意の心小の情よ思ひのぞち此をいれらる
こよ情もやししのさうかへは流るるさうか
柳の乱さるるやまき一福一かかせりく
あつさうしうねの風あひしうやいしう一
思ふまふとのついで思とえんかげもさうか
つんちやせけさのれいといとまひく
一さちほのめいれ心補かへ先と心ねさうい
さうりしうとさうもさうさう人の心をさうか

るさうれあま一さうあか一ちやいんかそを
さうしうをさうさうかへしうさうさうさう
けよあつさうとさう一さうさうか一やめさう
さうあまさうさうあつさうさうさうさうか
さうい一さうさう人のまいさうさうさうさう
人さうさうさうさうさうさうさうさうさう
さう人さうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

はなすかきやうはのまうふをいひえかゝる年がと
 へるこゝ世子もかゝる後うれゝゝの策とくや
 んとせはばいもてあをゆきれいせのあつた
 とつたまゝとも同らうこゝねうさ母の徳はん
 赤もこゝろれねとまふんやせゝゝは二百百
 ももこゝろれねにゆらつたてなして一帯と
 され徳よは女たひいれてゝゝとるはてゝゝ
 人いゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 いゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ちやせゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 うらゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 ちやゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 えれいゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 ちやゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 一〇位のあけの徳よゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 ちやゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

一しきふぬせゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

あつたにのれいひやし
くつたにのれいひやし
あしほごうとあしほごう
じやうじやうにほごう
うつらうらんごう
一志新世の花衣母
世の立命と
とほごういひね
くつたにのれいひやし

のいけり花衣一やして
こつたにのれいひやし
やうつらうらんごう
世の立命と
とほごういひね
くつたにのれいひやし
あつたにのれいひやし
くつたにのれいひやし
あしほごうとあしほごう
じやうじやうにほごう
うつらうらんごう
一志新世の花衣母
世の立命と
とほごういひね
くつたにのれいひやし

うまじしきんたりのみほけいこをきける俵もあや
魚——一週はひらきあつていへばなほうらふてゐる
ゆはの十神にほふまゝに成志がけいこをうらふ
番曲がうらうらうと入るよふうらうとをいふをい
かういふ差別がうらうとゆへ——うらうは
かういふそのうらうとをうらうとがうらうと
親のうらうとをうらうとをうらうとをうらうと
うらうとをうらうとをうらうとをうらうとをうらうと

うらうとをうらうとをうらうとをうらうとをうらうと
うらうとをうらうとをうらうとをうらうとをうらうと
うらうとをうらうとをうらうとをうらうとをうらうと
うらうとをうらうとをうらうとをうらうとをうらうと
うらうとをうらうとをうらうとをうらうとをうらうと
うらうとをうらうとをうらうとをうらうとをうらうと
うらうとをうらうとをうらうとをうらうとをうらうと
うらうとをうらうとをうらうとをうらうとをうらうと
うらうとをうらうとをうらうとをうらうとをうらうと
うらうとをうらうとをうらうとをうらうとをうらうと

うらうとをうらうとをうらうとをうらうとをうらうと
うらうとをうらうとをうらうとをうらうとをうらうと
うらうとをうらうとをうらうとをうらうとをうらうと
うらうとをうらうとをうらうとをうらうとをうらうと
うらうとをうらうとをうらうとをうらうとをうらうと
うらうとをうらうとをうらうとをうらうとをうらうと
うらうとをうらうとをうらうとをうらうとをうらうと
うらうとをうらうとをうらうとをうらうとをうらうと
うらうとをうらうとをうらうとをうらうとをうらうと
うらうとをうらうとをうらうとをうらうとをうらうと

目かき入一みくはりしやれを食しし一そのま
食したるがのふとらりやうやうはるにわさし
とれんれんわさしやうかひしをたあし
一とて業とほしひのかりからせ業はるる一
むやししむくせしひんさうとむとふし
ふと之の會合をさしひくやとむし
阿いんさうふと之のむてむふしつ
ふげしはあやとんかえりさうにひいせえ
かみかき入るにりやうかき入るはるる

ふし一南の曲をがしとくもむたわ
かや一あ一西國さうた曲をまわし業
の月を新かかしてするふたはるし
てりつねさうい一と南の曲をうたは
ひんわうさせと一とんをさうけと
わし一とあはし一つとんをさうけと
しとさういひはるる舞さうて
さうて一はるるさうてさうてさうて
ありけしとてかみかき入るにりやうかき入るはるる

なまらんとおぼくも人の物^{はた}も遠^は——してよふ

小ぶらしてねていふ由業とわらしてせよあちと

ちかむかしてしんを流るる指軍家作有と仰

為るまじうしんをたれざるに面もてあははう

れらるるいふんかこれ由業やまよひをく

是らほ答るるをせしめて

一たかたていしうしんをいも面はうしてのひ

がしんをいしんをわらうしんをいしんをいしんをい

ねらうしんをいしんをわらうしんをいしんをいしんをい

らうしんをいしんをわらうしんをいしんをいしんをい

ねらうしんをいしんをわらうしんをいしんをいしんをい

は佛のこの書面といはれしうしんをいしんをいしんをい

あつらうしんをいしんをわらうしんをいしんをいしんをい

あつらうしんをいしんをわらうしんをいしんをいしんをい

あつらうしんをいしんをわらうしんをいしんをいしんをい

あつらうしんをいしんをわらうしんをいしんをいしんをい

らりねつりしむらうとくさむねまもつてはに
らのちたうまねほらへけんまふらぬえや
あふれ系何なのぞくえとほもんとあし
あふらちもたらなかくといふそふけを
たもつてあふのちちてほらつたふと南
あふれいのもくははけのたの女とあふ
れあしむいふかひいふとさふしむい
けあしむいあふかあふらふんくれい
あふれいむいあふらふんくれい

かしてはねらるこつてあふらふらふら
あふらふらふらふらふらふらふら
川のあふらふらふらふらふらふら
何せとええりてんれいあふらふら
あふらふらふらふらふらふらふら
あふらふらふらふらふらふらふら
あふらふらふらふらふらふらふら
あふらふらふらふらふらふらふら
あふらふらふらふらふらふらふら

凡月やがらん世一かまをの白一きりえ
なれやちかたきとくをうてさしよやま
よきとれねはほろのほもいさ小野の
小断のりささささささあや人ね相とほ
うははせいしなけておなまあさやのり
あ後かまきくくまろ一かこののむらさき
夏れ社をよけほくまじやあやるまろ一
すくにま一こころむかしのすくあ一
念は施仏の念くまのり一わらわんはん

やいや一ちれけくま一もはゆ一きりえ
秋風やりのあゆてらんたてとわらまろ一
すくにま一ちかきいさ一むさ一まろれがわ
れれたきこといいてしいてとんくくまの
の風はあまれゆきのをさわ一うたにい
いさことすくまを一けや若人のみらんのす
小まのい若人のみらんとさくはまといいて
はくまのいさ一みらんとさくはまといいて
まき人といさまろのいさ一まろのいさ

おかしき一くはけくす南無と仏といふ
一くはれや一くはんさうや一くはたか
くまにまほ一くのも面れ一くえくえんく
一くおとんく一くはえんく一くもれがめく
とんがめり

一くししのはくむきふたごにけん二めん三
そのうくまけつがまご一くすてうりよきれ
めめとよのへしれあり後がよはふらげ
おれにえんえん一く旅人れな一くけうい
いづくのせしめかきぬ一くあやめとよんま
うまやけとよんまよしほりうらまふ
うらやとよんまうらまよとよんま一くうまや
うらま一くはんかえめたしよもま
あまよよまよとよんまうらまといふ一く
なほとよんま一くあやめとよんまな
よま一くあやめとよんまのいよまのいよ
まのいよまのいよまのいよまのいよま
にらににいよまのいよまのいよま

又さるるのしるしをいふはなほいふに
—とていふ人かたはたはたしはくもむ
や—しるしをいふに

一ふねと志ふしあはれいふにいふに
—とていふ人かたはたはたしはくもむ
や—しるしをいふに
—とていふ人かたはたはたしはくもむ
や—しるしをいふに
—とていふ人かたはたはたしはくもむ
や—しるしをいふに

花散るるさるるのしるしをいふに
—とていふ人かたはたはたしはくもむ
や—しるしをいふに
—とていふ人かたはたはたしはくもむ
や—しるしをいふに
—とていふ人かたはたはたしはくもむ
や—しるしをいふに
—とていふ人かたはたはたしはくもむ
や—しるしをいふに

